

受賞のことば

ゲーム理論のさらなる深化

シンガポール国立大学教授 高橋 悟

この度は円城寺次郎記念賞をいただき、大変ありがたく思います。このような栄えある賞をいただけることに驚いています。本当にありがとうございます。

私はゲーム理論と呼ばれる分野を研究しています。その中でも特に、(1)長期的関係のもとでのインセンティブと、その生み出す、静的なモデルではなかなか説明のつかない様々な行動(たとえば非血縁者間の短期的な犠牲を伴う協力行動)を説明する繰り返しゲームと、(2)相互に私的情報を持つ状況を記述し、そのような私的情報がどのような戦略的な含意をもたらすのかを分析する不完備情報ゲームの二本柱でこれまでやってきました。実は、このふたつがひとつの論文に同時に登場することはあまりないのですが、どちらのゲームも再帰的構造を持ち、研究者はエッセイの絵のような無限の不思議に向き合うこととなります。このあたりが繰り返しゲームと不完備情報ゲームに共通する魅力であり、私自身が今まで飽きることなく、研究を繰り返し続けられた理由なのかもしれません。

ゲーム理論は20世紀後半に急速に発展し、経済学に大きな変革をもたらしました。学問分野としては既に成熟期にあり、日本人の貢献が華々しい分野でもあります。この伝統を絶やすことなく、また次の世代に繋げられたら、と思います。

過去の素晴らしい受賞者の方々と比して、自分がどれほど日本の経済研究に貢献できたか自信はありません。研究段階では寄与の考えは薄く、ただただ自分の知的好奇心に従って研究を進めてまいりました。その結果をこのような形で評価して下さったことをうれしく思います。これからもいっそうの研鑽に励み、経済学者の皆様に色々な道具立てを提供できるよう、研究を続けていきたいと思っております。ご指導ご鞭撻のほどをよろしく願いいたします。

たかはし さとる

2000年東京大学卒、07年米ハーバード大学博士課程修了、Ph. D. (経済学)取得。米プリンストン大学助教授、シンガポール国立大学准教授を経て、16年から同教授、20年、エコノメトリック・ソサエティ・フェローに選出。主な論文に“Multi-sender cheap talk with restricted state spaces” (共著、*Theoretical Economics*)、“Community enforcement when players observe partners' past play” (*Journal of Economic Theory*)、“Recursive Methods in Discounted Stochastic Games: An Algorithm for $\delta \rightarrow 1$ and a Folk Theorem” (共著、*Econometrica*)などがある。78年徳島県生まれ。